

令和2年度 第1回 佐久市立近代美術館協議会 議事録

令和2年7月31日(金) 午前10時～正午
佐久市役所南棟 3階会議室

出席者：委員8名(2名欠席)、事務局5名

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 令和元年度事業結果について

事務局：(資料3～6ページの説明)

(2) 令和2年度事業の日程変更等について

事務局：(資料7ページの説明)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、資料のとおり展覧会日程を変更した。
「日向裕・綾 佐久市児童生徒美術コンクール」に対しては、今年2月の協議会で
「個人応募枠」などの提案があったが、今年度は休校等の影響も考慮し、小中学校
と協議して要項を定める。

委員：事業報告内「無料区域利用者数」とは、何を指しているか。

事務局：第1～5展示室に入らず、喫茶室、視聴覚室、ロビー等の無料区域のみを利用した
人数を指している。

委員：YouTube動画など、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館期間に実施した
新たな取り組みについて、説明してほしい。

事務局：休館中は、ウェブ上で収蔵作品の高画質画像を公開する「ネットでたのしむ収蔵品
展」、リモート型ワークショップ「おうちでつくろう①ガムテープ編」を実施し、
岩村田高校の臼井教諭の協力のもと、ワークショップの参考動画として「ガムテ
ープ&新聞紙でつくろう」を制作した。資料整理期間と合わせて約3か月間長期休館
するにあたり、何かできることはないかと、係の中でアイデアを出し合って企画し
た。「ネットでたのしむ収蔵品展」は期間限定の予定だったが、収蔵資料を広く周
知するため、今後も続けていく。

現在開催中の展覧会「収蔵品展 人物百態 —『すがた』と『しぐさ』—」では、「おみくじつきアマビエ葉」を来館者に配布している。会期変更前のポスターやチラシが配れなくなり、十分な広報ができない中、話題性を持たせて展覧会の周知に繋げることを目的に企画した。7月21日の信濃毎日新聞地域面に取り上げられたため、おみくじ目当ての来館者も目立つ。

また、前回の協議会に諮ったとおり、7月4日から収蔵品展の観覧料を無料とした。駒場公園内を散歩する人に声をかけると、小さな子ども連れの方でも、無料だったらということで来館してもらえる。

委員：「ネットでのしむ収蔵品展」は、作品の画像を大きく拡大して鑑賞できるのが良かった。

事務局：ウェブ上だけでなく、実際に来館して作品を鑑賞してもらえよう工夫する。

委員：新型コロナウイルスの影響で、公園の利用者が増えていると思うが、公園と一体となって来館者を呼び込む協力体制はとれないか。

事務局：たくさんの方が一度に来館すると「3密」を避けられなくなるため、様子を見る必要がある。「3密」にならない範囲で、できるだけ多くの方に来館してもらいたい。

委員：佐久平の美術展で入賞した高校生の作品が、地域の介護施設に展示されていた。地域に作品が展示されるのは、とても良いことと思う。

事務局：事務局はその作品の設置に関わっていない。入賞者が在籍する高校が働きかけたと思われる。参考にしたい。

委員：「ガムテープ&新聞紙でつくろう」の動画再生回数が300回弱だった。内容は良かったが、もう少し宣伝するべきだ。お金をかけない方法を検討してほしい。収蔵品展が無料になったことも含めて、学校を通じてなどで、小中学生に周知を図れないか。

事務局：市広報紙やホームページ等で周知を図っている。新聞への掲載は有効な手段であり、特別企画展では新聞に広告掲載を行っているが、費用面からその他の展覧会やイベントの広告掲載は難しい。記事として掲載してもらえよう企画を実施する。

事務局：以前は小中学生向けイベントの案内を全校配布していたが、学校教育課から全校配布のプリントを減らすように依頼されたため、現在は配布を止めている。小中学校への周知にあたっては、生涯学習課発行の「佐久っ子だより」を活用する。

(3) 令和3年度以降の事業について

事務局：(資料8ページの説明)

来年度の具体的な計画は、第2回協議会で提示する。

事務局：児童生徒美術展のコンクール化に対し、昨年度第2回協議会において、学校選出枠の他に美術班等の特別枠のようなものも考えてもらいたいとの意見があった。現在詳しい要項を作成しているところであるが、今年度は学校選出により開催し、特別枠についてはその状況により、先生方の意見も聞く中で、来年度以降に実施していきたいと考えている。

委員：今年度中止となった「ザワメキアート展」は、来年度に開催しないか。

事務局：主催者(県)からの話では、来年度の開催時期は未定で、開催規模を縮小する可能性があるとのことであった。過去2回の開催時に好評であったため、会場に選ばれば来年度も受け入れたいが、例年公募展を開催している時期など、会期によっては受け入れられない場合もある。

委員：テレビ番組で紹介されて、アール・ブリュットの認知度が高まっているほか、子どもたちの反応も良い。主催者から声がかかったら、前向きに開催を検討してほしい。

事務局：新型コロナウイルスの感染拡大状況も踏まえ、慎重に判断する。

委員：現在の「佐久平の美術展」審査員の任期が終わるとのことであるが、現在の審査員は非常に良い講評をしてくれている。継続することはできないか。

事務局：「佐久平の美術展」の審査員講評は、他の公募展にない特長として認識している。次期審査員は、現審査員の意向も確認し、実行委員会でも検討する。

委員：周囲の人に、美術館に対する意見を聴取したところ「建物がきれいでないと、美術館に行きたいとは思わない」という話があった。企画や広報も必要だが、見かけの第一印象も大事だと思う。カーペットの染みを除去するなど、清潔なイメージを保ってほしい。

また、展示室内の床コンセントが壊れており、つまずいたこともある。どんな方でも安心して観覧できるように、安全性を重視してほしい。

委員：古い建物の中には趣があるものもあるが、近代美術館はただ「ボロい」と感じるだけ。何年か先を見据えて修繕計画を立てるなど、気を配ってほしい。

事務局：カーペットの染みのような汚れについては、現在は対処が難しい。コンセントの件は、来館者に危険が及ぶことなので、早めの対応をしていきたい。

(4) その他

委員：配信された工作動画は、見たいと思わせる作りになっていなかった。1回目より2回目の再生回数が少ないことが、出来の悪さを如実に物語っている。プロの意見等も取り入れる必要がある。ただ配信するだけでは意味がない。広報手段よりもまずは内容を充実させることを考えてほしい。

美術館で動画作りをする上では、実際に作品を見たときの感動にどう繋げていくかが重要だと思う。映像では実際に見たときの感動には敵わない。

事務局：予算と時間のない中で職員が初めて制作したため、指摘の点は事務局も認識している。来年度は外注や、専門家の意見を聞きながらの動画制作を検討していきたい。

委員：「まちじゅう美術館」は、小中学校で実施しないのか。

事務局：過去においては、市内の様々な施設に展示した時期もあったが、防犯などの観点から、展示ケースが設置されている4か所のみとしている。

委員：一日だけ作品を小中学校に展示し、学芸員の解説や対話型鑑賞を行う「出張美術館」は可能か。

事務局：過去には実施していた。現在は作品輸送時の事故等への懸念から、職員のみでの作品運搬を行わないようにしている。専門業者に作品運搬を依頼すれば実施できるが、相応の経費がかかる。

委員：収蔵作品ではなく、事業に理解のある作家から、作品を借りて実施するのはどうか。

事務局：他館では、収蔵作品のアートカードを活用するなどの授業例もある。収蔵作品の運搬を伴わずに実施する方法を考えていきたい。

委員：学芸員の解説を聞いて初めて、美術鑑賞を面白いと思ったこともあり、YouTubeで動画配信をするならば、会話しながら作品を解説する動画が見たい。小中学校の授業にも使ってもらえるかもしれない。

委員：「おうちでつくろう」ウェブページの館長講評の中で、参加者の作品と似た収蔵作品を紹介しているのが良かった。子どもたちにとって、収蔵作品に興味を持つきっかけになると思う。

委員：小学校の社会科見学では、子ども未来館には行くが、近代美術館には行かないと聞いている。30分だけでも良いから、美術館をコースに組み込めないか。

委員：社会科見学のコースは、学年や担任の意向が強く出る傾向にあるが、美術館見学を促したい。

美術館鑑賞の経験に乏しい教員が多いのも、美術館見学が実現しない理由のひとつだと思う。以前に上田市立美術館の協力で、教員対象の対話型鑑賞研修を実施し

たことがあるが、楽しかったという評価が多数だった。

事務局：近代美術館でも対応は可能。相談に応じていきたい。

委員：今年6月に鈴木公人先生が亡くなられた。ぜひ回顧展を開催してほしい。

事務局：当館の運営にも尽力いただいた。今年は長岡國人氏の展覧会を開催し、来年度以後も佐久地域にゆかりのある作家の展覧会を計画していきたいと考えている。鈴木氏の展覧会は以前に一度開催しているので、その点も考慮して検討する。

4 閉会